

2024年 夏季参加報告書

参加プログラム：SMEAG(TOEICコース)

参加時の学年：2年、学部：社会、学科：社会

今回私が留学を決めた理由は2つあった。1つ目は、海外の生活を体験することだ。「日本は恵まれている国だ」と海外から帰国してきた人が声にするのをよく耳にする。しかし、自分自身が日本のありがたさを感じることは実体験を通してはなかった。そのため、この1カ月の留学を通して、日本と海外の違いを自分自身の体験を通して感じてみたいと考えた。「自分の知らないことを知る」という体験は、今後の自分を成長させるきっかけになると感じた。2つ目は、TOEICのスコアを上げることだ。自分の興味のある職業にはTOEICのスコアが採用条件であることが多いが、自分の苦手なリスニング力を独学で向上させるには限界があると感じた。そのため留学を通して、英語の音に慣れてリスニング力を上げたいと考えた。

最初の1週目は、環境になれることに精一杯で辛いことも多かった。2週目には、エアコンの風で喉がやられ、風邪を引いてしまった。コミュニケーションを取るのが少し辛かったが持参した薬で治すことができた。3週目は休日に行き先で日光湿疹になり腕に赤い発心が出てしまい、かゆみが止まらなかった。だが、現地の薬で治すことができた。改めて、海外旅行保険に入っていてよかったと感じた瞬間であった。留学中の生活は、毎日が新鮮で思い出に残る日々だった。食堂では席に限りがあるため、相席の交渉を英語で行ったり、海外の人とコミュニケーションを取ったりと英語スキルを高める場所であった。実際に、そこで出会った中国の大学教授の方と仲良くなり、中国語や文化を教えてもらい、とても楽しい時間を過ごせた。また、先生と仲良くなった台湾人とフィリピン料理を食べるなど貴重な経験もすることができた。キャンパス内の6階には卓球台やビリヤード台があり、授業終わりに様々な国の人とゲームをするなど英語を積極的に使う場に加え、体を動かす機会も作ることもできてとても楽しい留学期間を送ることができた。

私が一番印象に残っていることはセブ島の貧困の格差である。留学する前は、セブ島は観光地で綺麗という印象があった。だが実際には、一部だけであって、スラム街や物乞いを多く目にした。タクシーに乗っていると窓ガラスを叩かれ、商品を買ってくれとお願いされたり、子どもがコインをくれと手を差し伸べて来たりと発展途上国の現実を知ることができた。

留学をして成長できた点は、失敗を恐れないことだと考える。その理由として、最初は英語を喋れないという恐怖や自信のなさから誰にも声をかけることができず、笑顔で受け答えをするだけだった。この状況を変え、もっと色々な人と仲良くなりたいと思い2週目には食堂で一緒になった人や席が近くなった人に積極的に声をかけた。順調のように感じていたが、アニバーサリーパーティーに参加した際に「君はもっと英語を練習する必要がある」と留学生に言われてしまった。きっと、私が英語を上手に聞き取れず、正しくない文法で話していたことが原因だと考える。自分の弱みところを見抜かれて落ち込んだ。だが、残り少ない時間を落ち込んだまま過ごすより、一から学ぶ気持ちで何事にも挑戦し、失敗する方がより有意義な時間を過ごせると感じた。失敗をすることは怖い、できれば避けたい。けれど、失敗から得られることがたくさんあるということ学べたことで、最後の1週間はより楽しい時間を過ごすことができた。最終日に、文法の先生が「あなたは最初に比べて明るく、そして会話を積極的にするようになって私はいつも楽しい授業ができた。」と温かい言葉を伝えてくれた。これからも失敗を恐れずにさまざまなことに挑戦していきたいと思える1ヶ月間であった。



今後は、目標スコアであるTOEIC800点を達成して英語を自分の強みに変えていきたい。さらに、今後は話す力も身に付けていきたいと考えている。海外の人と会話ができることは「知らないことを知る」経験になり、自分の価値観を広げられると感じた。自分自身の考え方を考え、常に相手を受け入れる心を養うためにもスピーキング力を向上させていくことを今後の目標にする。